

編集後記

昨年度から1年間に渡って酒井忠雄先生（愛知工業大学）のもとで共同編集という形で編集のやり方を教わりながら、業務を引き継いでまいりました。そして、本年1月より、この21巻1号の編集から実質的な編集をさせていただきました。この間、酒井先生から貴重なご助言をいただきながら、編集業務を進めることができました。本号にもこれまでと同様に多くの投稿論文や記事が集まり、充実したものになりましたのは、酒井先生の昨年度までのご尽力のお蔭でした。この紙面を借りてお礼申し上げます。

巻頭言は中野恵文先生（鳥取大学）にお願いました。公定法としてのFIA法の更なる発展に強い願いが込められています。昨年12月にベネゼーラで開催されました12回ICFIAのオーガナイザーであるProf. Burgueraにも巻頭言をお願いしていたつもりでしたが、会議の報告に関する記事が送られてきました。樋口慶郎氏にご寄稿いただきました12th ICFIA 報告記と合わせて読んでいただければ会議の様子をつかんでいただけるのではないかと思います。総説には、先のベネゼーラの会議にも出席されていましたギリシャのIoannina大学のProf. Karayannisにご執筆をいただきました。本年より総説担当の松本 清先生（九州大学）

のお骨折りで実現したものです。解説の欄は、本会誌が会員の皆様に親しみやすさをもっていただくことを目指して、20号より企画されているもので、本号では川久保進先生と山根 兵先生（山梨大学）にご寄稿をお願いしました。この企画を今後も続けていきたいと思っておりますので、会員の皆様には、このような解説があると役に立つとのご要望やご意見を事務局や本誌編集委員会にご連絡をいただければありがたく存じます。英文の原著論文もたくさんの投稿がありました。次号にもたくさんの論文のご投稿をお待ちしております。また、前号より公募しておりますミニレビューにも1報の投稿がありました。今後もミニレビューへのご投稿をお待ちしております。ご自身のご研究をまとめておく上で、あるいは会員の皆様へのご紹介を兼ねてご利用されては如何でしょうか。学会情報としては、田中秀治先生（徳島大学）には国内の学会のタイトルをまとめていただきました。受田浩之先生（高知大学）にはFIAに関するたくさんの論文を収録いただきました。

最後になりましたが、慣れない編集のため会誌発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

JFIA 編集委員長

今任稔彦